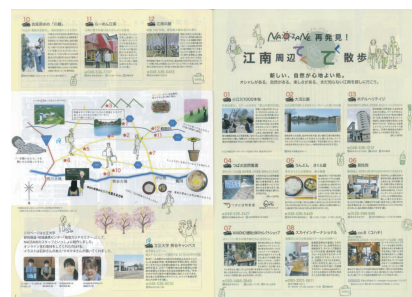




コーディネーター
LINE公式



地域連携コーディネーター
熊谷キャンパス担当

小林 真



出身・在住の深谷、現在の職場のある熊谷、妻経営の「コミュニティカフェ「NINOKURA」」のある本庄市、埼玉県北3市をベースに活動しています。

学習塾経営と編集者・ライターのキャリアとネットワークが身上。世代、活動ジャンル、団体属性、自治体域などを越える全方向的なコーディネートを心がけ立正大学地域連携をお手伝いしたいと思っています。

NPO くまがや副代表理事
編集者・ライター
熊谷市市民活動支援
センター所長
(同 NPO 指定管理)

地域連携コーディネーター
品川キャンパス担当

横田明菜



一般社団法人地域
デザインプラットフォーム
代表理事
コミュニティカフェ
「大人の秘密基地
arcoiris」店舗責任者

産学連携コーディネーター
全学担当

夏原 馨



合同会社 summerfield
代表社員
経済産業大臣認定
中小企業診断士

中小事業者を中心とした経営支援が生業です。主にITや人材活用、販売促進や資金繰りなどの分野で、コンサルティング/セミナーを自治体や外郭団体、民間事業者さまからのご依頼で実施しています。

自治体や外郭団体からの依頼の中で、地域活性化や複数のコミュニティやステークホルダーをつなぐ役割を担うこともあります。これまでの経験をいかして、立正大学の産学コーディネーターとして、産学連携・事業者の方々や大学といった異なる分野の相乗効果を生み出せるよう支援して参ります。



石原小「新しい修学旅行」ガイドの発信力UPセミナー

3人のコーディネーターが2021年の連携を発信!

立正大学研究推進・地域連携センターには、品川・熊谷キャンパス担当の地域連携コーディネーター各1名、全学担当の産学連携コーディネーター1名、計3名のコーディネーターが配置されています。

コロナ禍で、思うような事業ができなかった2021年。同センターはオンラインを活用しながら学生と地域、産業界を結びつけるさまざまな事業を行いました。12月付で3人のコーディネーターが、今年の活動を振り返る4ページのブックレットです。

①「地域みっちゃんく生活情報誌 NAOZANE」編
熊谷市で全戸配布されるフリーペーパー「NAOZANE(株)ピーパー」4月号の「てくてく散歩 江南エリア特集」。同誌制作部、ライターとして関わる小林コーディネーターとともに、公募で集まった学生がZoomを活用しながら取材先選り、取材、マップ制作に参加しました。

②「インタビュ動画」熊谷×「スポーツ地域活性化」編
2月にラグビータウン熊谷の地域活性化を図る市民の呼びかけで連携がスタート。7月22日、スポーツ番組テレビディレクターの木下健さんを講師に、熊谷ラグビー合唱団代表の白村健さん、NPOアカス熊谷理事・本学データサイエンス学部講師の宮崎善幸さんとの対談を白村さんが経営する「ベリヤ」編と続いた地域といた地域と公開しています。

③「石原小学校」新しい修学旅行」編
コロナ禍で、昨年度から熊谷市内をめぐる自由散策のかたちで修学旅行を行っている石原小学校。訪問先の一つとして訪れる16名の6年生のガイドで、募集に応じた5名の学生で11月2日に行われた。参加学生はいずれも教職課程履修。地理学科の立休視ほかキャンパスの日常は小学生に、貴重な体験になりました。

「日本酒プロジェクト」。立正ブランド「立映」をベースに継続中。2013年から熊谷市内唯一の酒蔵・(株)権田酒造との連携で行われてきた「日本酒プロジェクト」2020年度は利酒師・兵道俊美さん、商業デザイナー・後藤新吾さん(株)うさぎ屋)の協力も得て、本学ブランド日本酒「立映」の商品コンセプト策定やデザインを行い、同酒造やオンラインショップで発売されました。

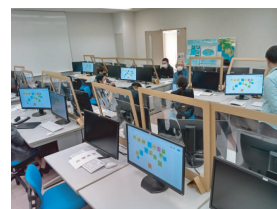
「日本酒プロジェクト」。立正ブランド「立映」をベースに継続中。2013年から熊谷市内唯一の酒蔵・(株)権田酒造との連携で行われてきた「日本酒プロジェクト」2020年度は利酒師・兵道俊美さん、商業デザイナー・後藤新吾さん(株)うさぎ屋)の協力も得て、本学ブランド日本酒「立映」の商品コンセプト策定やデザインを行い、同酒造やオンラインショップで発売されました。

「日本酒プロジェクト」。立正ブランド「立映」をベースに継続中。2013年から熊谷市内唯一の酒蔵・(株)権田酒造との連携で行われてきた「日本酒プロジェクト」2020年度は利酒師・兵道俊美さん、商業デザイナー・後藤新吾さん(株)うさぎ屋)の協力も得て、本学ブランド日本酒「立映」の商品コンセプト策定やデザインを行い、同酒造やオンラインショップで発売されました。

「日本酒プロジェクト」。立正ブランド「立映」をベースに継続中。2013年から熊谷市内唯一の酒蔵・(株)権田酒造との連携で行われてきた「日本酒プロジェクト」2020年度は利酒師・兵道俊美さん、商業デザイナー・後藤新吾さん(株)うさぎ屋)の協力も得て、本学ブランド日本酒「立映」の商品コンセプト策定やデザインを行い、同酒造やオンラインショップで発売されました。

「日本酒プロジェクト」。立正ブランド「立映」をベースに継続中。2013年から熊谷市内唯一の酒蔵・(株)権田酒造との連携で行われてきた「日本酒プロジェクト」2020年度は利酒師・兵道俊美さん、商業デザイナー・後藤新吾さん(株)うさぎ屋)の協力も得て、本学ブランド日本酒「立映」の商品コンセプト策定やデザインを行い、同酒造やオンラインショップで発売されました。

「発信力UPセミナー」を3メディアで展開



10月29日熊谷キャンパス



立映完成時

「しながわ夢さん橋」に
学生がボランティア参加
10月9・10日の「第34回しながわ夢さん橋2021」に学生ボランティア10名が参加しました。大崎エリアマネージメントとの共同事業。9月に学生間の顔合わせをオンラインで行い、イベント当日は大崎駅前夢さん橋などで活動しました。

参加学生のアイデアからNPO法人との連携が生まれたり、ミライ会議実行委員への参加なども派生しています。

NPO法人プラチナ美容塾との
ボランティア企画が始動

品川周辺で高齢者施設でのボランティアや美容啓発活動を行っているNPO法人プラチナ美容塾との連携で、立正大学生と高齢者と



▲こみゆにいていぶらざ八潮外観(公式サイトより)
11月のワークショップと視察▼



大崎第一地域地区委員会主催
「親子プログラミング教室」
を学生がサポート
大崎第一地域地区委員会およびマッシュルーム主催で、11月28日に親子プログラミング教室が開催されました。学生2名が参加。プログラミング(Scratch)を親子に教えるサポーターとして参加しました。

品川区、エリアマネージメント、NPO... さまざまな連携が展開中



しながわ夢さん橋ではエコルとこしもPR



のオンライン交流企画
が立ち上がりました。
本学学生4名(主に熊
谷キャンパス)がボラ
ンティアセンターを通
じて参加し、継続的な
活動を行っています。

品川区との協働
「こみゆにいていぶらざ
八潮」活性化事業進展
小学校跡を活用した

品川区「こみゆにいていぶらざ八潮
(区民活動交流施設)」の活性化事
業。プラザ内圃場で栄養を失った

土壌の科学的再生を行い、「土壌リ
フレッシュセンター」として持続
的に利用しようとしています。11
月13日のワークショップでは、橋
本力男氏の土壌再生に関する講演、
横山和成教授の土壌微生物多様性・
活性値に関する講演、プラザ内畑
での再生土壌による露地栽培、元
気食堂での食育イベントなどが発
案されました。

品川区立環境学習交流施設
「エコルとこし」での連携

22年5月に戸越公園にオープン
予定の環境学習交流施設「エコル



「エコルとこし」11月末の状況(公式サイトより)

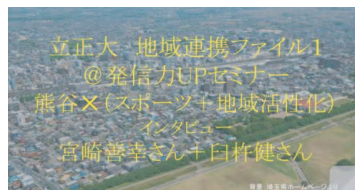
「発信力UPセミナー」は全学展開へ ブックレット版制作参加学生を募集!

熊谷キャンパスでスタートし、さまざまな地域メディアと連携してきました(熊谷キャンパス編参照)。本ブックレット版も同セミナーのひとつに加わり、セミナーの一環として学生と協働製作する方針。両キャンパスを通じての展開となります。

発信力UPセミナー
制作参加希望は公式LINEから

7.22「熊谷×(スポーツ+地域活性化)」発言ダイジェスト

詳しくはP4 全発言をYoutubeで公開



【宮崎】熊谷はラグビータウン。たとえば学校でアルカスがおしえて子どもたちは他市に比べて圧倒的にラグビーがうまい。でも、中にいてもっとラグビーでいるんなことできると思う 【白杵】まちで商売をやっている側からすれば、たとえば温泉から関連ビジネスが育っていくように熊谷のスポーツから産業が生まれてほしい 【木下】ワイルドナイツの移転は大きなチャンスでは 【白杵】「スクラム!」はWナイツカラーに合わせた 【木下】広島カープの赤のように統一イメージは重要 【宮崎】明日開幕の五輪が採用は世界を転載する7人制。都市全体のおまつりになる香港セブンスのようなイベントも、アルカスのある熊谷なら可能では 【木下】明治大の紫紺のように、立正スポーツの統一カラーは? 【宮崎】もとのカラーは緑。数年前からロゴはブルーになり、ラグビー、野球、サッカーなど強化部もユニフォームの色はばらばら 【白杵】熊谷のスポーツ全体のPRはまちの役目と思い、駅に情報ボードを設置した。応援Tシャツを着る人が出てくればおもしろいし、学生スポーツは地域コンテンツとして可能性が大きい。スポーツに力を入れている大学が熊谷にキャンパスがあるのは「スポーツ熱中都市宣言」と親和性がある 【永田】野球部のマネージャーをしている。強化クラブをより身近に感じてもらいたいと思って、まちでの「野球部紹介」を提案した 【宮崎】作戦考えましょう。まずは野球からということ。立正大学のHPの閲覧の25%は強化部のもの。そこで全ての部が紹介されれば、それが入学者数につながって大学はハッピー 【永田】強化クラブ同士仲よくなりたい。またここに参加している学生を巻き込んでやっていきたい 【白杵】やりましょう



ミライ会議

立正大学ミライ会議は、ゲスト自身のキャリアなどを通して参加者が新しい価値の獲得や生き方のヒントを得て今後の人生に活かすオンラインコミュニティです。

学生主体の実行委員発足から約1年で、現在まで3回のミライ会議が開催されました。第4回の開催は22年2月を予定。今後、学生実行委員募集予定です。

instagramで「立正大学ミライ会議」を検索してください。

新しい価値を生む オンラインコミュニティ「ミライ会議」